

# FUTURE CENTER NEWS

フューチャーセンター通信 2015.01.16-18 vol.14  
2015年2月1日発行号



ぎふフューチャーセンターは、大学、地域、自治体がともに地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくる対話の場で、岐阜大学の地(知)の拠点整備事業の取り組みの一つです。今年度の第10回は、郡上市の石徹白地区で開催し、現地視察、地域住民へのヒアリング、地域住民との対話等を通じ、石徹白での暮らしや少子高齢化などの地域課題について考えました。



地域の課題への取り組みを探る

## いとしろ 石徹白を知り地域の課題解決を考える

来年度から実施する岐阜大学の教育プログラムの先行的な取り組みとして、地域の課題を発掘するために、1月16日(金)から1月18日(日)に郡上市白鳥町石徹白地区で『雪国『石徹白』体験&交流合宿』(学生11名、教職員6名が参加)を行いました。初日は現地視察や住民との対話などを行い、石徹白の基本的な情報(地理、人口、歴史、産業、暮らしなど)を知ることができました。

2日目は地域の課題や取り組みをさらに深く学ぶため、地域住民へのヒアリングを行いました。コミュニティカフェの代表者から、女性が地域活動へ関わるきっかけや子育ての話を、地域づくり協議会の会長からは、合併、地名の由来、白山信仰など歴史や文化の話を、地域おこし協力隊の方から石徹白ふるさと食品加工組合の取り組みや地域でのイベント(「星降る里のキャンドルナイト」など)の話を聞くことで、合宿の参加者は石徹白地区の課題や取り組みを知ることができました。その後、大学生が4つのグループに分かれ、地域の課題解決に向けて大学や大学生がどのような取り組み(プロジェクト)ができるかを議論しました。最終日には大学生が提案するプロジェクトを地域住民へ向けて発表し、意見交換を行い、地域の方々からプロジェクトの実現を期待する声を聞くことができました。今後のプロジェクトの展開が注目されます。

### 大学生が考えたプロジェクト

#### ●生協石徹白フェア～大自然の恵み～

岐阜大学生協の店舗で石徹白の商品を販売、食堂で石徹白の郷土料理を提供することで、食を通じて岐阜大学生に石徹白を知ってもらう。

#### ●子育てしたい町石徹白

自然環境を活かし、子どもの豊かな人間性を育てる。自然とアートを組み合わせた自然体験を行い、子どもの創造性、自主性を育む。

いとしろびと

#### ●石徹白人の話～地域内外の交流促進～

地域住民(主に高齢者)と他地域の人々が対話を行い、地域内外の交流を促進する。風習の映像撮影、マンガの作成など石徹白の伝統文化を記録する。個人所有の物品を集めた私設の民俗博物館を開設する。

#### ●冬と夏の石徹白ツアー

冬は天体観測、マラソン、雪祭りを開催する。夏は主に小中学生を対象に夏季休暇の課題完成、収穫体験、星空観察、調理実習を行うサマースクールを開催する。





# FUTURE CENTER NEWS

## フューチャーセンター通信

Center for Collaborative Study with Community

### 石徹白地区の見学と雪下ろし体験

石徹白の地域資源を把握するため、<sup>ほくさんちゅうきよ</sup>白山中居神社、<sup>いとしろきよみ</sup>石徹白清住邸、小水力発電機などを見学しました。白山信仰、福井県からの越県合併などの石徹白の歴史、地域での新しい取り組みを学ぶことができました。視察以外に雪下ろしを体験し、雪国の暮らしの大変さを身をもって体験する良い機会になりました。



#### 現地を知る



拝殿視察(白山中居神社)



史料を紐解く(石徹白清住邸)



石徹白の産業の一つを知る(農産物加工所)

#### 雪国の暮らしを知る



1階部分が雪で覆われた家



除雪作業



雪下ろし体験



岐阜大学  
教育学部美術教育講座 3年  
**山田 唯仁** さん

#### 今後も楽しみな山里を知った

山あいの集落の様子や地域の活動を知り、さらにグループワークを通じて深く考えることができたので勉強になりました。人口減少が進む中、「むら」を維持するために、若者の受け入れや子育ての推進などに取り組む地域の勢いにふれ、将来が明るいと感じました。学生が子どもとふれあう「サマースクール」の提案は、実現できるとおもしろいと思います。



岐阜大学  
工学部社会基盤工学科 2年  
**石川 恵理** さん

#### 地域を深く思う石徹白の人々

地域住民の話を聞いた貴重な機会でした。石徹白の良さの一つは、地域を深く思う方が多いことだと思います。学生に親しく、優しく接し、真剣に向き合ってください、住民の方の温かさを感じました。夏も冬も楽しめる石徹白に他の学生にも行ってほしいです。岐阜大学生協で石徹白の特産品を販売する提案は、学生が取り組んでいくことができる内容だと思います。



石徹白地区  
地域づくり協議会事務局  
**平野 彰秀** さん

#### 大学生たちの成長を感じた3日間

石徹白では大学生のスタディツアーをたびたび受け入れていますが、今回は、学生たちのレベルの高さに驚かされました。地域住民の思いや地域の特性を読み取った上での提案は、いずれも実現性のある素晴らしい提案でした。地域志向教育を通じた学生たちの成長がたくましく感じられる3日間でした。

**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[ FAX ] 058-293-3167  
[ E-Mail ] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
**岐阜大学**



文部科学省  
**地(知)の拠点**

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の支援のもと推進されています





# FUTURE CENTER NEWS

フューチャーセンター通信 2014.09.14 vol.10  
2014年11月15日発行号

ぎふフューチャーセンターは、大学、地域、自治体がともに地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくる対話の場で、岐阜大学の地(知)の拠点整備事業の取組みの一つです。今年度の第7回は、岐阜大学応用生物科学部の授業の一部として開催し、学生や教職員、農業協同組合(JA)関係者の皆様及び生産者の皆様が話し合いました。

Check!



飛驒牛の魅力を高めるために

## 学生、生産者らが未来を探る

岐阜大学応用生物科学部の授業「地域ブランドと地域振興I(飛驒牛倶楽部)」では、JA全農岐阜、JAひだ及び岐阜県の協力のもと、「飛驒牛」について講義や宿泊実習により学んでいます。今回は、この授業の宿泊実習の一部として、9月14日にフューチャーセンターを開催し、学生や教職員、JA関係者の皆様及び農家の皆様26人が「飛驒牛についてどう考えるか」をテーマに語り合いました。

福井博一応用生物科学部長による挨拶及び参加いただく農家の皆様のご紹介の後、伊藤栄一地域協学センター地域コーディネーターの進行により話し合いを開始しました。8~9人ごとにグループになり、まず、簡単に自己紹介を行った後、最初のセッション「みなさんにとっての飛驒牛とは?」に入りました。参加者からは、高級である、ブランドである、おいしい、脂肪が多い、宣伝力が低いなどの意見が出されました。

続いて、第2セッション「飛驒牛をどうしていったらよいとお考えですか?」、第3セッション「第2セッションの考えを実現するには何をすればよいですか?」と話題を掘り下げて話し合いました。生産者からは、現場における苦勞や初期投資や生産にかかる費用、飛驒牛の安定生産を図るために必要な子牛を生産する農家の減少などの現状や問題点が語られました。一方で、消費者の目線で語った参加者からは「安価で身近な食材となってほしい」といった意見のほか、それとは逆に「高級路線でいくべき」という意見が出されるなど、それぞれの立場で思いを語り合いながら、互いに理解を深めました。

最後の発表では、各グループから、「生産者と消費者の距離を縮める」、「生産量を上げるために岐阜大学が研究を進める」などの意見が出されました。

このフューチャーセンターを踏まえ、学生たちは担当教員の指導のもとさらに学びを深め、今年12月に「若者から見た飛驒牛の魅力」として提案します。

### 各グループからの意見・アイデア

- 農家がレシピを提供したり、店舗を経営するなどにより生産者と消費者の距離を縮める
- コンビニやファミレスなど身近な場所での提供 ● ゆるキャラを活用してPRする
- 生産量を上げるために、着床しやすい受精卵・生存率の高い子牛・育てやすい子牛の研究を岐阜大学が進める



岐阜大学

CCSC 地域協学センター  
Center for Collaborative Study with Community





### 地域ブランドを現場で学ぶ

# 飛騨牛倶楽部 (「地域ブランドと地域振興I」)

岐阜県が誇るブランド「飛騨牛」について学ぶため開講された授業です。飛騨牛の取組みや現状について、集中講義と宿泊実習により学びます。今期は応用生物科学部の1年生12人が受講しています。

### 宿泊実習(1泊2日)



飛騨牛の歴史や現状についての講義(岐阜県畜産研究所)



せり場の見学(飛騨ミート)



繁殖雌牛や子牛の飼育現場の見学(社)岐阜県農畜産公社)



飛騨牛や飛騨豚の試食(食材提供:JA全農岐阜)



フューチャーセンター



岐阜大学  
応用生物科学部 1年  
谷澤 純 さん

### 生産者と直接対話し課題を把握

生産者の方々から直接お話を聞くことができたおかげで、飛騨牛の値下げが難しいことや他の課題もいくつかわかりました。生産者、大学など研究機関、消費者である若者など様々な視点から問題を迫ることで解決へ近づくことができたのではないかと考えます。



岐阜大学  
応用生物科学部 1年  
上田 裕紀 さん

### 課題解決のヒントが得られた

飛騨牛について今回の研修で得たことを視覚化し、意見交流、発表することによってテーマについての具体的なビジョンをつかむことができました。様々な立場の人と話し合う中で、自分にはない視点からの意見も出てきて、今後の課題解決に向けてのヒントが得られ、有意義な時間にすることができました。



JA全農岐阜  
四方 義人 さん

### 斬新な考えを取り入れる場

飛騨牛というブランドを通して学生と生産者、JA職員が交流することができたことは貴重な体験でした。特に消費者目線での飛騨牛のイメージと課題が浮き彫りとなり、新たな創造につながりました。生産者がふだん交流の少ない若い学生の斬新な考えを取り入れる場としてフューチャーセンターをもっと活用できることを期待しています。



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.09.29 2015年12月1日発行号

VOL.20



### 生産、流通の課題から探る 飛騨牛ブランドの未来戦略

岐阜大学全学共通教育科目「地域ブランドと地域振興I、II(飛騨牛倶楽部)」では、受講生は応用生物科学部の先生方の指導の下、外部講師(JA職員等)による講義や高山市での宿泊実習(岐阜県畜産研究所や地元畜産農家、飛騨ミートの施設の見学)を通じて、岐阜県のブランドである飛騨牛の振興について考えます。9月29日、この授業の一環として開催したフューチャーセンターには、学生や教員、JA関係者や農家のみなさんの32人が参加しました。

対話では、グループごとに飛騨牛の生産または流通の過程での課題やそれに対する工夫を出し合い、最後に「発展的に飛騨牛ブランドを盛り上げるためのブランド戦略」としてまとめ、発表しました。各グループからは、「観光と結び付ける」、「牛の特徴を数値として見える化する」、「法人化や資金面の支援により新規参入しやすくする」などの意見が出されました。今後、学生たちは飛騨牛についてさらに学びを深め、その成果を地域に向けて発表する予定です。



#### 今回のまとめ

- 観光と結び付けてPRする
- 飛騨牛らしさ(小サシクローズに脂がきれいな網目状に入る)、淡い肉色などを数値として「見える化」する
- 肉質以外で差別化を図る
- 法人化や資金面の支援により新規参入を促し、後継者を育てる
- 子牛の数が少ないため、衛生管理を徹底し、子牛の病気を防ぐ

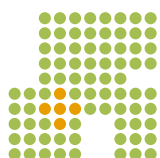
各グループからの  
意見・アイデア



#### 自分の考えを広げるきっかけに

岐阜大学応用生物科学部1年  
齋藤 結女 さん

飛騨牛の現地研修で学んだことに関して意見交流をすることで、仲間や自分と異なる立場の方々の多様な意見を聞くことができました。どの意見も非常に興味深く、斬新であったため、自分の考えをより広げることができました。今回学習したことをもとに、課題解決のため、様々な視点から考察をしていきたいです。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[ FAX ] 058-293-3167  
[ E-Mail ] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点